

～滝上高校の軌跡～

「高校の町民向け公開授業」を参観して

社会教育委員 中楠 毅

滝上高校では地域に密着した教育を目標に様々な取り組みを行っていることは、町民の皆様もご存じだと思います。

冬の除雪支援や町のゴミ拾い、公園での芝ざくら植栽や修学旅行先に芝桜の苗を届けるなど地域に根ざした多様な活動を続けています。

今回は「町民向け公開授業」の案内を目にしましたので早速参加してきました。十月十二、十三、十四日の三日間、午前中全ての授業を公開しました。

中学校時代に「数学教室」に参加した生徒が進学していますので、その子たちの成長ぶりも楽しみに一日目の「一年生の現代社会、二年生の体育、数学Ⅱ、三年生の社会と情報、政治・経済」の授業を参観しました。

一日目の参加者は十数名でした。若い先生の数学の授業、ベテランの先生の社会の授業、中堅の先生の情報の授業でしたが、どの先生も年齢や経験に応じた授業の組み立てで、生徒達も真剣に取り組んでいました。特に発問の仕方や板書に工夫がなされていて、生徒の性格や習熟度に合わせた発問、わかりやすい板書などきめ細かな指導が印象的でした。「数学教室」に通っていた生徒

とも話が出来たし、充実した学校生活を送っていることを実感しました。



教室での公開授業の様子

今年度より国は一八歳から参加できる選挙制度を実施していますが、社会科の授業では主権者としての教育を意識した学習内容を学んでいました。

体育では、バスケットの学習をしていましたが、遅くなった姿で体育館を走り回っている生徒を見て心身ともに健やかに成長していることを感じました。

また、生徒の進路希望に応じて選択教科を設け、進学先に対応した教育を行っているとの聞き、先生たちの視線が生徒個々に向けられ、「小さな学校の大きな教育」を旨とする意識

込みを察することが出来ました。参観日というと、自分の子の学校での生活や学習状況を知るといふ保護者としての対応が主だと思えますが、地域と学校が子供の成長を支援する視点で考えると、学校が開かれ、地域住民が積極的に学校に足を運び、子ども達の活動を地域の人々が感じ、ともに生きる社会を実現させることが大切に思えます。



体育館の授業の様子

滝上高校もあと三年で閉校すると聞いています。残された時間は少なくなりましたが、滝上の住民の多くが学校教育と関わり、住みやすい地域社会を創出できるように多くの方々が気軽に学校を訪問できると良いなと思いました。